



海でも!

宿でも!

山でも!

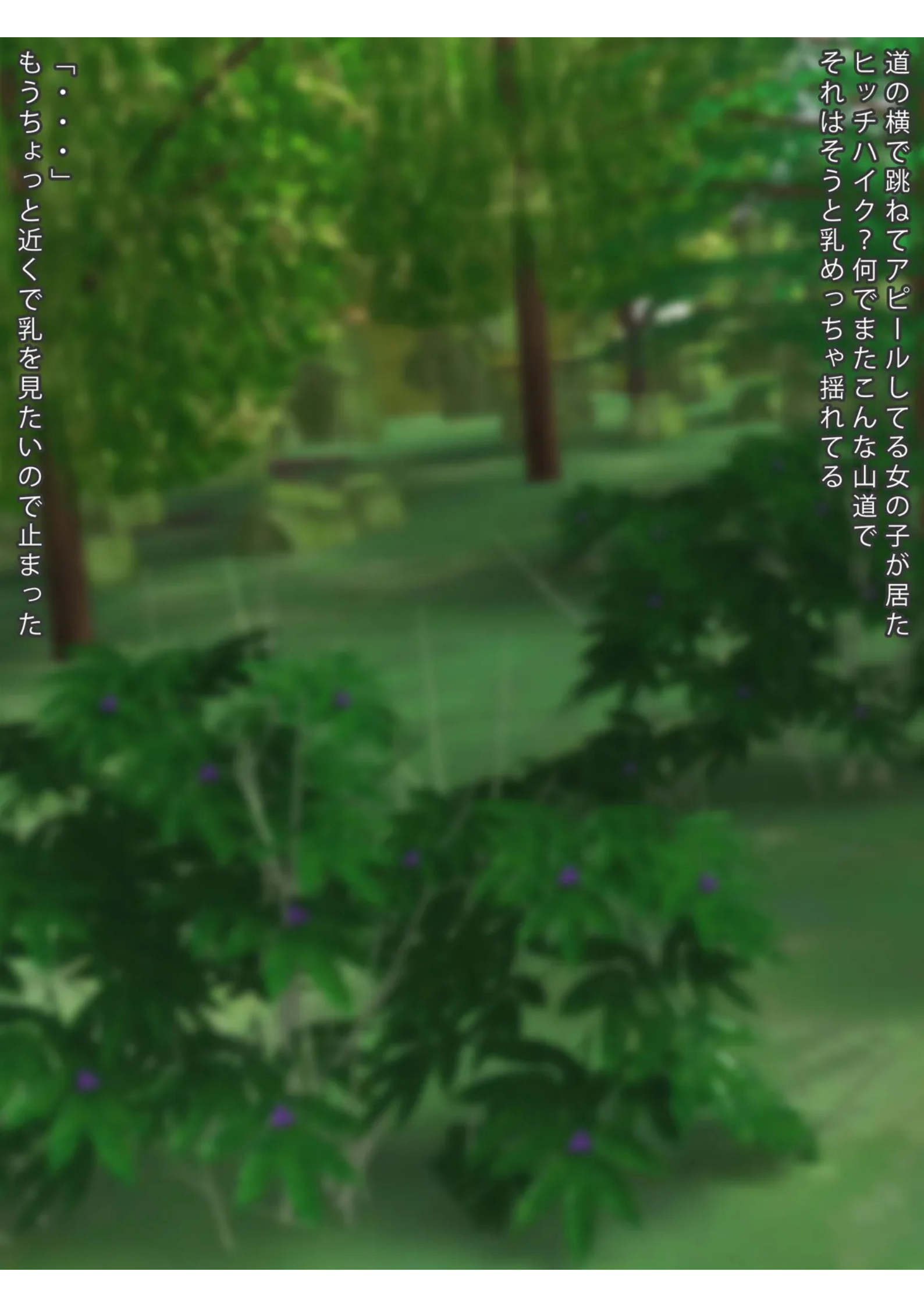
ヒッチハイクしていた女の子と
行く先々でセックス三昧の旅!

「退屈だなあ・・・」
きまぐれで車に乗って遠出したものの
面白い事なんて何も無く暇だ

出発前に宿までとったのに
もう家に帰りたくなってきた
キャンセルして帰ろうかな・・・

「とまってー!」

「ん?」



道の横で跳ねてアピールしてる女の子が居た
ヒツチハイク？何でまたこんな山道で
それはそうと乳めっちゃ揺れてる

「・・・」
もうちょっと近くで乳を見たいので止まった

「よかったです止まってくれてありがとうございます！」

「困った時はお互い様だよ」

(まあ完全に下心からだけど)



「できれば〇〇町まで行きたいんだけど・・・
難しいならお兄さんが今日行くところまで乗せて欲しいな」

「町まではちよつと遠いなあ、うーん」

「今日は少し行った所の安いホテルに泊るけど
そこまでで良ければ行く？」

「うん！ありがとう！」

良い事をした上に女の子とドライブなんて遠出してよかった



ここからだホテル着いたら夜か

夜の山道も危険だけど女の子一人で町を歩くのも危ないな
でもきつとひと部屋くらい空いてるだろ

さすがに一緒に泊まるだなんてそんな事は

・・・何か起こらないかな

「何から何までごめんね」

「いやいいんだよ、うん」



外は危ないし満室だったので
自分の予約した部屋に通した
もちろんベットはひとつ

「・・・」

「お兄さん」

「は、はい！」

おっぱい♡



「お礼をさせて♡」





ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン

ムンムン



「ふう・・・ふう・・・汗でベタベタ」
「うん・・・すごく気持ちよかった」
「えへへ、嬉しい」

宿に入ってから数時間
今までずっと飲まず食わず
汗だくになりながらセックスし続けた



後から聞いたのだが
彼女は目的地まで歩いて旅をしていた
でも一週間が経ったあたりで
かなりムラムムラきていたらしい

そこでヒッチハイクをして
男を捕まえようとしたら自分がたまたま通って……
という事だったらしい、ラッキーだった



「こんな事まで……らしいの？」

「さらさらさらよ〜♪遠慮しないで」





ゴッポッ

フツッ

フツッ

ゴッポッ



「たくさん出たね、お疲れ様〜」

(ニコニコしながら綺麗にしてくれてる)

ナニナニ
ニ

ハハハハ
♡

ハハハハ
♡

(エロくて良い子だなあ。。。うーん)



「そういえば、町に行きたいって言って言ってたけどさ
やっぱりそこまで送るよ」

「えっ!? 嬉しい! ありがとう!」

「う、うん」

(かわいいなあ)

「じゃあ道中でもお礼しなきゃだね♪」

(・・・楽しい旅になりそう!)



「うわぁ！綺麗だねー」

途中に海があったので寄った



水着を持ってきてきていると聞いたので
本音を言うとそっちが見たくて止まった

「つめたーい！わーい」

（あーすっげえ揺れてる。。。ありがとう海、本当にありがとう）



（やべっ、勃ってきた）

「。。。むっ！」

「んもー、まだお昼過ぎだよ？」

「あはは。。。ごめん」



「それじゃあそここのお風呂でしようか？」

大きな岩の上に寝そべって脱がしたが
これは良い

「あゝ・・・あの、あんまり見られると
ちよっと恥ずかしいかなあゝ・・・なんて」



「んもー！さっきより勃起してるじゃん！」





「ふう・・・途中から私も夢中で腰振って
声もたくさん出ちゃった
もう恥ずかしくないや」

「もっとしよよ」
結局夕方までやり続けた
今日の予定の半分も行っていないけどいいか



ゴボリン♡

次の日の昼頃
山小屋があると聞いて来たのだが

車は途中までしか行けず
しかも雨まで降ってきて
途中から山道を歩いて登ってきた

「たはは、いっぱい濡れちゃったね」



「あれ、ムラムラきちゃったの」

あん♡

ムラムラ

ムラムラ

「いいけどすぐしたいの?..まあいつか

もういっぱい濡れちゃってるし」

(それに山小屋でエッチってなんかドキドキするし♡)

ムラムラ







「うわあ・・・色んな汁でぐちやぐちや
すごくえっちいねコレ♡」

服を洗って乾かしてる間に雨が止んで
その間に彼女は小屋にある地図を見ていた

「……むむっ！この近くに天然の温泉があるみたい！」

「すぐだから行こ行こ♪一緒に入ろう♪」

さっきまで歩いてきたのに元気だなあ
もちろん行くけど、一緒に温泉入りたい！



最初は普通に温泉を楽しんでいたけど
それだけで終わるわけもなく
パイズリをリクエストした

「こんな感じ？大丈夫かな？」

「うん、すごく上手だよ」

(温泉で暖まったオツパイに挟まれるの
すっげえ気持ち良い。。。)





1.1
3

ム

ゴ

ゴ

ゴ



ドッ

わっ!

ゴッ

「うわーお胸がすごい事に
ところで気持ちよかった？」



♡♡♡

お下

「すごく上手だった。。。いっぱい出た。。。」
「えへへ、良かったよー」



(やわらげえ)
「あのお……」

「ん？お尻でしたいの？いらすとよ」



「わっ、わっ、これすげーおはー」





(お尻でエッチするのじやないか...)

(いっぱい注がれちゃってるよ...まだお腹の中に残ってる)

カク
カク
ズン

ハッ
ハッ

ニ

日が暮れて宿に泊まった

彼女と旅をしてそろそろ一週間経つが
明日中には着くだろう





あゝ♡
あゝ♡
あゝ♡
あゝ♡

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡
ん♡

ん♡
ん♡



「ふう。。。ところで何で急に鏡の前でしたくなつたの」

「もう目的地に着くでしょ？だから到着前夜の記念エッチ動画撮りたくて！
あとでこれ見てオナニーするの♪」

「変わってるね」

「そうかなー？」

あー。。。もう着いちゃうんだよなあ



そろそろ目的地に着く
長かった旅も終わっちゃうんだなあ・・・
寂しい

彼女はさっきまで道端で交尾してる犬を見て
はしゃいでたけど今はぐっすり寝てる
それにしても寝顔もかわいいなあ
・・・よし





「起きてないよね？。。。じゃあ失礼して」



...くっ、出る、抜かないと



ダメだ、中に出ちやうた!...でもこのまま...ぐう

うわ、めっちゃ絞られる...

ドクッ

グッ

ムロッ

グッ

グッ

グッ

グッ

「ふう・・・あっ、こ、これはその」
「うふふ悪い人だね私を起こさず一人で気持ちよくなるなんて」



ヤバイ、どう言い訳しよう
「よしーじゃあお外で続きしよ、ほらほら早く」
「ご、ごめ・・・うん？う、うん」

「そういえばー」

「うん？」

「さつき道端で交尾してた犬がいたよね」
「ああそうだね、それがどうしたの？」

んー♡

「あんな感じの本気セックスしてみない？
ガチで孕ませてやる！って感じのやつ♡」

んー♡

んー♡

「・・・」



(あんっ、いつもより激しいかも
めっちゃちゃんぽガツチガチになってるし♡)



「んうっ♡きたあ！」

！んっ！？

んっ

んっ♡
んっ♡

グ
ド
ユ
グ
ド
ユ

グ
ド
ユ
グ
ド
ユ

グ
ド
ユ
グ
ド
ユ

グ
ド
ユ
グ
ド
ユ

グ
ド
ユ
グ
ド
ユ

(あれ？出てるけどまだ動いてる
もしかしてこれ本気の射精じゃない？
じゃあこのあと・・・)



「もう・・・いっぱい出し過ぎだよ・・・
すごいこぼれちゃった・・・」

「・・・もつとしたいの？
さらよ、いっぱいだよ」



んんん♡

♡
♡
♡
♡
♡
♡
♡

ガッガッ
♡

ガッ
♡

ゴボ
ドドド

ゴボ
ドドド





クキクキ

クキ

クキ

クキクキ

クキクキ...

「用事も済ませたし、今日は一晚中エッチしようね」
町に着いたらお別れかと思ってたけど
それは自分の勘違いで

彼女が町を目指した理由は
頼まれた荷物を届けに来ただけだった
その後は特に予定は無いという事で
今夜一緒に宿に泊まる事になった



「明日からどうしよっかなー」



い

ん

ん

「そうだー」

「お兄さんの家までついていっていい？
まだ全然お礼したりないし」
「…？」



「あー……。すごく嬉しいけど
俺の家まで遠いよ？ヒツチハイクしてた所から
ここまでだって距離あったのに」

……

「むう、確かにずいぶん距離あるね」



「じゃあ自分楽しめるって事だね♡」

（。。。帰り道はゆっくり走るう）

ズッ

おしまい



















































































































